

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100413		
法人名	社会福祉法人 福聚会		
事業所名	グループホーム 宝珠の郷 萩ユニット		
所在地	福井県福井市内山梨子町 3-46		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 21 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成28年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来6年目を迎え、スタッフ一人ひとりが日ごろから、ご利用者様やご家族様などの話を傾聴することを常に意識しつつ、当法人の職員理念「私たちは地域のみなさんに信頼される、こころ温まる質の高い介護を提供します」の実現・達成に努めている。
平成28年7月に実施したご家族様対象のアンケートによれば、当グループホームが提供するサービスへの満足度について尋ねた問いに全てのご家族が「満足している」と回答したものの、「十分に」と高く評価をいただいたのは6割にとどまった。こうしたご声を真摯に受け止め、さらなる満足度向上を目指し、ご利用者様やご家族が心から安心していただける環境づくりに取り組んでいく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設34年目を迎えた併設の特別養護老人ホームが築き上げた地域とのつながりを基盤として、地域の文化祭や小・中学校の運動会等に参加するとともに、事業所の一室を自治会型デイホームに開放する等、地域との交流を積極的に深めている。また、中学校の資源回収には必ず古紙を出す等、地域の一員としての意識も高い。その他、夏バテ防止の食事や体操など地域の高齢者に向けた講座を開催し、地域の高齢者福祉の拠点としての役割を果たすよう努めている。職員間のコミュニケーションは良好で、様々な気づきを話し合ったり、互いの言動を注意し合ったりして、運営改善や利用者へのサービス向上に繋がっている。利用者が心地よく生活できるよう作品作りなどを考え、意欲的に利用者と一緒に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに楽しみ助け合い皆が温かい気持ちになれる施設」を職員で作り上げることを目標に毎朝、ミーティング時に職員全員で理念・サービス方針を唱和・共有し、実践につなげている。	理念や方針、毎月の実践目標を掲示し、毎朝唱和して目標を意識しながら利用者支援を行っている。実践目標は各自の自己評価と上司のアドバイスを踏まえてステップアップできるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれた事業所を目指し、法人全体で開催している月1回の法話や夏祭り、文化祭や小中学校の運動会、自治会型デイホーム等にも参加。今年は当所の春・秋の遠足を地域の高齢者と一緒に楽しむなどの交流を図った。	地域の運動会では、職員が企画に参加し、交流や理解が深まるよう努めている他、年2回地域の高齢者と利用者が一緒に外出する機会を作り、地域の高齢者の閉じこもり防止に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当所への慰問、地域行事への参加、自治会型デイホームの会場提供の機会を利用し、認知症の理解や支援の方法等地域の皆さんへアウトプットしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進委員会を開催。家族代表としてご利用者様のご家族にも参加いただき、意見や要望等、ご家族様の声をサービス向上に反映している。また委員会の中で実際にご利用者様と一緒にもちつきや食事会など交流の機会を設け、サービス向上に向けた今後の課題の検討を行っている。	運営推進会議のメンバーには、事業所でボランティアをしている方もおり、活発な質問や意見や提案がある。提案を基に行事を企画する等、運営に活かしている。議事録は、個人情報も含まれるため閲覧で対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れている。また運営推進委員会に地域包括支援センター職員の出席をいただき、介護保険制度の現状把握、地域内の情報収集のほか、困難ケースについても相談している。	外部評価結果や目標達計画書の提出を通して、市との連携に努めている。また、地域包括支援センターとは、運営や困難事例等の相談をする等、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・言葉の拘束をしないケアを周知徹底している。夜間の玄関の施錠以外は居室窓など自由に開閉できるようになっているほか、別ユニットとの行き来も自由に行っている。	拒否の強い利用者に対しては、強引な対応をせず、時間をかけて対応している。また、身体拘束等の「不適切なケア」防止のため外部講師を招いて研修を行い、職員間で日々の言動を注意し合い、支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の内部研修に参加し、職員一人ひとりの知識の習得と向上に努めている。日々、虐待行為にあたるような対応が行われていないか、職員同士がお互いに注意をし合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料を常備し、ご利用者様やご家族様から問い合わせがあった場合は地域福祉権利擁護事業や高齢者権利擁護対応専門職チームなどを紹介できるようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・重要事項説明書に添って、ご利用者様やご家族様に十分に説明を行い、その都度、質問や疑問には納得していただけるまで丁寧に対応し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時には必ず職員が立ち会いコミュニケーションを図ると共に、個々のサービスにおける要望の把握に努めている。また毎年、事業所独自でご家族様を対象にしたアンケートを実施し、ご意見等をサービスに反映できるよう努めている。	家族アンケートを年1回実施し、結果を分析し運営に反映している他、面会時には、話しやすい雰囲気作りを心掛け、意見を聞いている。利用者の意見は、普段の関わりから聞く他、家族に聞いてもらう等して把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の法人全体での部署会議、また当所のミーティング時において、運営状況や業務の見直し案などを聞く機会を設け、職員間で検討しあいながら今後のサービス向上につなげている。	普段から些細な事でも話し合える関係作りを大切にしている。また年1回の面談時や各種委員会を通じて提案や意見をまとめ、職員全体で実現に向けて考える体制づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに、職員一人ひとりが年間目標を掲げている。管理者などが年に2回、個別に面談し、目標達成に向けた相談や指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップに向けた研修計画のもと、講師による研修や、外部研修の報告会、内部勉強会を繰り返し実施している。また毎月、目標を掲げ、自己評価表を基に目標の自己モニタリングを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の方と電話で情報交換を行うほか、県老協主催のバレーボール大会への参加やそれに伴った他事業所と練習試合などを通して交流を図る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人様、ご家族様と面談し、生活歴や心身の状況の把握に努め、サービス内容に活かしている。また退院前カンファレンスにも積極的に参加し、入所後も出来るだけ今までの本人の望む暮らしができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、ご本人様、ご家族様双方に来所していただくことを基本とし、事業所の雰囲気を感じてもらいながら要望等を聞く機会を設け、必要とするサービス内容に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所・訪問時の面談の中で、ご本人様やご家族の思いや話を十分に聴き、サービス提供につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者様から調理や掃除、洗濯や礼儀作法といった暮らしに関わるさまざまな知識を学ぶなど、尊敬の気持ちを持ちながらより良い信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要に応じてご本人様の状況報告を行いながら、ご家族との外出機会や自宅帰省を定期的に行うなど、ご家族様と一緒に支え合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設している特養入所中の配偶者との面会支援や通所サービスを利用している馴染みの方との交流の機会を定期的に設けるなどご本人様の今までの生活環境が継続できるよう努めている。	家族の協力を得ながら墓参りや自宅訪問をしている。また月1回の法話を利用し、地域住民や知人と面会したり、利用者が作成したメッセージカードを親族や知人に送ったりする等、これまでのつながりが継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	別ユニットの利用者とも自由に交流できるようホーム内を解放している。また利用者同士が助け合い、関わり合う活動を取り入れ、お互いが支え合う支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の担当者やケアマネへ情報提供している。また契約終了後においてもご家族様の相談支援を継続し、必要に応じて関係機関と連携を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でレク活動や雑談などを通して、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また定期的にアセスメントシートを作成し、ご本人様の意向に応じたケア内容の検討を行っている。	家族から聞き取りや利用者の言葉を記録したものを基に職員間で利用者の思いを把握している。3か月ごとにアセスメントを行い、利用者の思いも取り入れて介護計画の作成や見直しを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には自宅訪問を基本とし、ご本人様やご家族、担当ケアマネから情報収集を行い、周りの生活環境や暮らしぶりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活のペースやリズム、体調を把握するよう心掛けている。個々のケアチェック表や気づきメモ、申し送り用紙等に記入し、細かな情報の把握・共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施。定期的に担当者会議やケアミーティングを開き、意見や提案を反映したケアプランを作成している。	3か月ごとに担当職員、家族、関係者が出席し、担当者会議を開き、相談しながら充実した介護計画を作成している。また、計画実施者が利用者の様子を記録し、毎月モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過を個別に記録しているほか、日誌やケアチェック表を記入し、職員間の情報共有を行っている。またご本人様の言葉や想いをそのまま記録し、職員がその都度、所見や考察をすることにより、きめ細かいケアと介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状態に応じ、通院や往診、個人的な買い物などの外出、訪問販売などの利用、また季節ごとの外出行事を取り入れるなど柔軟に対応し、個々の希望に沿うよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の希望や要望に応じて、買い物外出やお店からの食材の配達、訪問販売など地域資源を活用し、生活支援につなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続。希望があった方や心身の状態に応じて、近医への転院や往診診察を行っている。定期受診の付き添いはご家族様をお願いしているが、状態の変動時や急変時、またご家族の都合がつかない時は職員が付き添っている。	医療機関への受診は、家族の同行を基本としているが、定期受診以外は、職員も同行し、医師との連携を図っている。家族のみの場合は、電話や書面で受診結果の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、併設特養の看護職に都度、状態報告し、相談、指示を仰いでいる。また定期的な担当者会議において連携を図っているほか、夜間のオンコール体制を整え、緊急時の対応につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供し、ご本人様への面会、必要に応じた対応を行っている。ご家族様、主治医、担当看護師等と連絡を密に取りながら退院後の受け入れがスムーズにできるよう努めている。退院前カンファレンスにも積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では終末期のケースはないが、主治医を交えた定期的な担当者会議において、急変時や重度化に備えた対応を検討するほか、職員間で協議する機会を設けている。	利用者や家族の意向を尊重しているが、利用者の状態に応じて医療機関や看取りができる機関への移行を含め、利用者や家族と検討している。併設の特別養護老人ホームは看取りを行っており、普段から連携を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを設置している。また、法人全体の勉強会に参加し、緊急時の対応等について、知識の習得・向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを設置している。年に2回、法人全体の避難訓練に参加するほか、町内の防災訓練にも参加し地域全体とのつながりを持っている。また備蓄品(水、缶づめ等)も確保している。	年2回の避難訓練以外に、震災想定訓練や連絡網の伝達確認の訓練等を行い、職員の意識向上を図っている。また、地域の防災訓練に利用者に参加することで、地域住民の利用者受入れに対する意識が高まっている。	家族に避難の方法や場所を伝え、速やかに安否確認ができる体制作りや、地域住民が参加する避難訓練を行い、役割を確認し、利用者の生命を守るための協力体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪室の際は必ずノック厳守とし、入室の許可を一人ひとりに得るなどプライバシーの配慮に努めている。法人全体の不適切ケアにかかる勉強会に参加するほか、言葉づかいについては職員同士がお互いにその都度注意し合っている。	入浴や排泄の介助は原則同性で行う等の配慮をしている他、利用者の細かな指摘にも謙虚な姿勢で対応し、利用者の意思の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人様の話を傾聴することにより、思いや希望を吸い上げ、外出行事や食事行事、レク活動を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でいろいろな決まりごとはあるが、自己選択が出来るような声掛けや対応が自然体で行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問散髪を、ご本人様の意思で利用いただいている。また、地域の衣料品店へ訪問販売を依頼し、好みの衣類を購入できるなど、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好みや季節に合わせて献立を作成している。近所の方から、野菜等のおすそ分けもいただきながら、調理までの下ごしらえをご利用者様と一緒にしたり、食卓を囲み会話をしながら食事したりしている。	利用者の希望や好み、季節等を考慮して献立を作成している。調理には利用者も参加している。また職員が利用者と一緒に食事を取り、利用者の声を献立や調理に反映している。箸は、各自、年初めに家族が持ってきたものを使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、事業所内の給食委員内で献立を作成している。ご利用者様の嗜好に応じてメニューの変更や好みの物を提供し、健康の維持を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや義歯の洗浄、歯磨きなどを日課とし、個々に応じて口腔ケアを行っている。週に1回はポリデント洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄パターンを把握しているほか、個々に合わせたトイレ誘導や排泄介助を行っている。また羞恥心に配慮し、さりげないケアに努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導に活かし、オムツ使用からパンツ使用に繋げる等、自立した排泄の支援を行っている。また、声かけの際には、自尊心を傷つけないよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中で繊維物や乳酸飲料等を多く取り入れている。また、こまめな水分補給や毎日の歩行訓練、軽体操を取り入れるなど、便秘解消を図っている。個々に応じてマッサージサービスの利用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週6回入浴実施。個々の入浴スタイルや都合に応じて、臨機応変に対応している。誘導から入浴まで職員が1対1で対応し、ゆったりと気持ちのよい入浴ができるよう努めている。	週2回入浴を基本としているが、希望や皮膚疾患など状況に応じて柔軟に対応し、心地よい入浴になるよう努めている。同性介助を基本とし、着替えの衣類を選ぶところから個別に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課として休息の時間等を決めているが、それぞれの生活習慣やご本人様の希望に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	原則、内服は職員が管理し、服薬や状態を確認している。また個々のファイル、ユニットごとに薬の種類や効能を記した用紙を綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の能力や生活スタイルなどに合わせ、家事手伝いや将棋、散歩等、楽しみを感じる生活となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人様の希望も考慮しながら、たけふ菊人形や近隣観光地へのドライブ、買い物などその都度、対応に心がけている。また、お墓参りや帰省等の希望があった場合は、ご家族に協力をお願いしている。	事業所周辺への散歩や買い物他、ドライブや外食など利用者の要望や状況に合わせた外出支援を行っている。また地域の高齢者にも呼びかけ、一緒に出掛けることで交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解やご本人様の管理能力に応じて、お金の所持を認めている。また、外出や買い物、受診など必要に応じてご本人様に支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からの希望があれば自由に電話をかけていただいている。また、毎月のレク活動の際、ご家族宛てにメッセージカードを作成し、郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の置物や掲示物を季節ごとに入れ替えている。また、テラスに自由に出入りし日向ぼっこを楽しんでもらうなど、日々の生活の中でゆったりと過ごせるような空間づくりに努めている。	玄関には、外出時の写真が飾られ、明るく楽しい雰囲気である。また共用空間の壁面には、利用者と職員が一緒に制作した季節風景のちぎり絵が飾られ、また、自由に出入りができるテラスもあり、ゆったりと過ごせる憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビング、ダイニングのほか、談話室を設けている。2ユニット内の仕切りもなく行き来も自由であり、ご利用者様一人ひとりが、思い思いに過ごせるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の好みの物や思い出の品物(仏壇・写真・ラジカセ・アルバム等)を持ってきてもらうなどご本人様が心地よく、また安心できる配慮している。	使い慣れた家具や調度品、仏壇等が自由に持ち込まれ、利用者一人ひとりの生活感漂う居室となっている。また、各居室にはベランダがあり自由に出入りができ開放的な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー、随所に手すりやサイドバーを設置するなど、ユニバーサル仕様となっている。また、トイレや浴室、居室の場所がわかるよう表示し、生活動作の自立につなげている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100413		
法人名	社会福祉法人 福聚会		
事業所名	グループホーム 宝珠の郷 桜ユニット		
所在地	福井県福井市内山梨子町 3-46		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 21 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成28年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来6年目を迎え、スタッフ一人ひとりが日ごろから、ご利用者様やご家族様などの話を傾聴することを常に意識しつつ、当法人の職員理念「私たちは地域の人々に信頼される、こころ温まる質の高い介護を提供します」の実現・達成に努めている。
平成28年7月に実施したご家族様対象のアンケートによれば、当グループホームが提供するサービスへの満足度について尋ねた問いに全てのご家族が「満足している」と回答したものの、「十分に」と高く評価をいただいたのは6割にとどまった。こうしたご声を真摯に受け止め、さらなる満足度向上を目指し、ご利用者様やご家族が心から安心していただける環境づくりに取り組んでいく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

萩ユニットと同様。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに楽しみ助け合い皆が温かい気持ちになれる施設」を職員で作り上げることを目標に毎朝、ミーティング時に職員全員で理念・サービス方針を唱和・共有し、実践につなげている。	萩ユニットと同様	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれた事業所を目指し、法人全体で開催している月1回の法話や夏祭り、文化祭や中学校の運動会、自治会型デイホーム等にも参加。今年は当所の春・秋の遠足を地域の高齢者と一緒に楽しむなどの交流を図った。	萩ユニットと同様	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当所への慰問、地域行事への参加、自治会型デイホームの会場提供の機会を利用し、認知症の理解や支援の方法等地域の皆さんへアウトプットしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進委員会を開催。家族代表としてご利用者様のご家族にも参加いただき、意見や要望等、ご家族様の声をサービス向上に反映している。また委員会の中で実際にご利用者様と一緒にもちつきや食事会など交流の機会を設け、サービス向上に向けた今後の課題の検討を行っている。	萩ユニットと同様	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れている。また運営推進委員会に地域包括支援センター職員の出席をいただき、介護保険制度の現状把握、地域内の情報収集のほか、困難ケースについても相談している。	萩ユニットと同様	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・言葉の拘束をしないケアを周知・徹底している。夜間の玄関の施錠以外は居室窓など自由に開閉できるようになっているほか、別ユニットとの行き来も自由に行っている。	萩ユニットと同様	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の内部研修に参加し、職員一人ひとりの知識の習得と向上に努めている。日々、虐待行為にあたるような対応が行われていないか、職員同士がお互いに注意をし合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料を常備し、ご利用者様やご家族様から問い合わせがあった場合は地域福祉権利擁護事業や高齢者権利擁護対応専門職チームなどを紹介できるようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・重要事項説明書に添って、ご利用者様やご家族様に十分に説明を行い、その都度、質問や疑問には納得していただけるまで丁寧に対応し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時には必ず職員が立ち会いコミュニケーションを図ると共に、個々のサービスにおける要望の把握に努めている。また毎年、事業所独自でご家族様を対象にしたアンケートを実施し、ご意見等をサービスに反映できるよう努めている。	菽ユニットと同様	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の法人全体での部署会議、また当所のミーティング時において、運営状況や業務の見直し案などを聞く機会を設け、職員間で検討しあいながら今後のサービス向上につなげている。	菽ユニットと同様	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに、職員一人ひとりが年間目標を掲げている。管理者などが年に2回、個別に面談し、目標達成に向けた相談や指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップに向けた研修計画のもと、講師による研修や、外部研修の報告会、内部勉強会を繰り返し実施している。また毎月、目標を掲げ、自己評価表を基に目標の自己モニタリングを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の方と電話で情報交換を行うほか、県老協主催のバレーボール大会への参加やそれに伴った他事業所と練習試合などを通して交流を図る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人様、ご家族様と面談し、生活歴や心身の状況の把握に努め、サービス内容に活かしている。また退院前カンファレンスにも積極的に参加し、入所後も出来るだけ今までの本人の望む暮らしができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、ご本人様、ご家族様双方に来所していただくことを基本とし、事業所の雰囲気を感じてもらいながら要望等を聞く機会を設け、必要とするサービス内容に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所・訪問時の面談の中で、ご本人様やご家族の思いや話を十分に聴き、サービス提供につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者様から調理や掃除、洗濯や礼儀作法といった暮らしに関わるさまざまな知識を学ぶなど、尊敬の気持ちを持ちながらより良い信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要に応じてご本人様の状況報告を行いながら、ご家族との外出機会や自宅帰省を定期的に行うなど、ご家族様と一緒に支え合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設している特養入所中の配偶者との面会支援や通所サービスを利用している馴染みの方との交流の機会を定期的に設けるなどご本人様の今までの生活環境が継続できるよう努めている。	菽ユニットと同様	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	別ユニットの利用者とも自由に交流できるようホーム内を解放している。また利用者同士が助け合い、関わり合う活動を取り入れ、お互いが支え合う支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の担当者やケアマネへ情報提供している。また契約終了後においてもご家族様の相談支援を継続し、必要に応じて関係機関と連携を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でレク活動や雑談などを通し、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また定期的にアセスメントシートを作成し、ご本人様の意向に応じたケア内容の検討を行っている。	萩ユニットと同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には自宅訪問を基本とし、ご本人様やご家族、担当ケアマネから情報収集を行い、周りの生活環境や暮らしぶりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活のペースやリズム、体調を把握するよう心掛けている。個々のケアチェック表や気づきメモ、申し送り用紙等に記入し、細かな情報の把握・共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施。定期的に担当者会議やケアミーティングを開き、意見や提案を反映したケアプランを作成している。	萩ユニットと同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過を個別に記録しているほか、日誌やケアチェック表を記入し、職員間の情報共有を行っている。またご本人様の言葉や想いをそのまま記録し、職員がその都度、所見や考察をすることにより、きめ細かいケアと介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状態に応じ、通院や往診、個人的な買い物などの外出、訪問販売などの利用、また季節ごとの外出行事を取り入れるなど柔軟に対応し、個々の希望に沿うよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の希望や要望に応じて、買い物外出やお店からの食材の配達、訪問販売など地域資源を活用し、生活支援につなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続。希望があった方や心身の状態に応じて、近医への転院や往診診察を行っている。定期受診の付き添いはご家族様をお願いしているが、状態の変動時や急変時、またご家族の都合がつかない時は職員が付き添っている。	萩ユニットと同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、併設特養の看護職に都度、状態報告し、相談、指示を仰いでいる。また定期的な担当者会議において連携を図っているほか、夜間のオンコール体制を整え、緊急時の対応につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供し、ご本人様への面会、必要に応じた対応を行っている。ご家族様、主治医、担当看護師等と連絡を密に取りながら退院後の受け入れがスムーズにできるよう努めている。退院前カンファレンスにも積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では終末期のケースはないが、主治医を交えた定期的な担当者会議において、急変時や重度化に備えた対応を検討するほか、職員間で協議する機会を設けている。	萩ユニットと同様	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを設置している。また、法人全体の勉強会に参加し、緊急時の対応等について、知識の習得・向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを設置している。年に2回、法人全体の避難訓練に参加するほか、町内の防災訓練にも参加し地域全体とのつながりを持っている。また備蓄品(水、缶づめ等)も確保している。	萩ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪室の際は必ずノック厳守とし、入室の許可を一人ひとりに得るなどプライバシーの配慮に努めている。法人全体の不適切ケアにかかる勉強会に参加するほか、言葉づかいについては職員同士がお互いにその都度注意し合っている。	萩ユニットと同様	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人様の話を傾聴することにより、思いや希望を吸い上げ、外出行事や食事行事、レク活動を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でいろいろな決まりごとはあるが、自己選択が出来るような声掛けや対応が自然体で行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問散髪を、ご本人様の意思で利用いただいている。また、地域の衣料品店へ訪問販売を依頼し、好みの衣類を購入できるなど、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好みや季節に合わせて献立を作成している。近所の方から、野菜等のおすそ分けもいただきながら、調理までの下ごしらえをご利用者様と一緒にしたり、食卓を囲み会話をしながら食事したりしている。	萩ユニットと同様	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、事業所内の給食委員内で献立を作成している。ご利用者様の嗜好に応じてメニューの変更や好みの物を提供し、健康の維持を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや義歯の洗浄、歯磨きなどを日課とし、個々に応じて口腔ケアを行っている。週に1回はポリデント洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄パターンを把握しているほか、個々に合わせたトイレ誘導や排泄介助を行っている。また羞恥心に配慮し、さりげないケアに努めている。	萩ユニットと同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中で繊維物や乳酸飲料等を多く取り入れている。また、こまめな水分補給や毎日の歩行訓練、軽体操を取り入れるなど、便秘解消を図っている。個々に応じてマッサージサービスの利用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週6回入浴実施。個々の入浴スタイルや都合に応じて、臨機応変に対応している。誘導から入浴まで職員が1対1で対応し、ゆったりと気持ちのよい入浴ができるよう努めている。	萩ユニットと同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課として休息の時間等を決めているが、それぞれの生活習慣やご本人様の希望に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	原則、内服は職員が管理し、服薬や状態を確認している。また個々のファイル、ユニットごとに薬の種類や効能を記した用紙を綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の能力や生活スタイルなどに合わせ、家事手伝いや将棋、散歩等、楽しみを感じる生活となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望も考慮しながら、たけふ菊人形や近隣観光地へのドライブ、買い物などその都度、対応に心がけている。また、お墓参りや帰省等の希望があった場合は、ご家族に協力をお願いしている。	萩ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解やご本人様の管理能力に応じて、お金の所持を認めている。また、外出や買い物、受診など必要に応じてご本人様に支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からの希望があれば自由に電話をかけていただいている。また、毎月のレク活動の際、ご家族宛てにメッセージカードを作成し、郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の置物や掲示物を季節ごとに入れ替えている。また、テラスに自由に出入りし日向ぼっこを楽しんでもらうなど、日々の生活の中でゆったりと過ごせるような空間づくりに努めている。	萩ユニットと同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビング、ダイニングのほか、談話室を設けている。2ユニット内の仕切りもなく行き来も自由であり、ご利用者様一人ひとりが、思い思いに過ごせるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の好みの物や思い出の品物(仏壇・写真・ラジカセ・アルバム等)を持ってきてもらうなどご本人様が心地よく、また安心できる配慮している。	萩ユニットと同様	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー、随所に手すりやサイドバーを設置するなど、ユニバーサル仕様となっている。また、トイレや浴室、居室の場所がわかるよう表示し、生活動作の自立につなげている。		